

地域への愛着と地域の一員としての自覚をもった児童の育成 —身近な人へのインタビューにより地域のよさを知り、伝える活動を通して—

総合的な学習の時間班 友松 真樹（小学校教諭）

現状と課題

児童の実態

- ・地域への愛着をもった児童は多いが、具体的に何が好きなのかははっきりしていない。
- ・地域の豊かな自然や観光資源に触れる経験が少ない。



学習過程の工夫

- ・身近な大人にインタビューして調べる活動を取り入れる。
- ・特産物や名所がたくさんある地域だということに気付かせる。
- ・地域を訪れる人に向けたポスター作りに取り組みさせる。



目指す児童像

- ・自分たちの地域の特徴や地域の人と自分のつながりについて再認識し、地域への愛着をもった児童
- ・地域社会で働く人の思いを知り、その人たちの役に立つ活動を通して地域の一員としての自覚をもった児童

実践の概要

教科・学年名 : 総合的な学習の時間 小学校3年生
単元名 : 大好き片品 PR大作戦

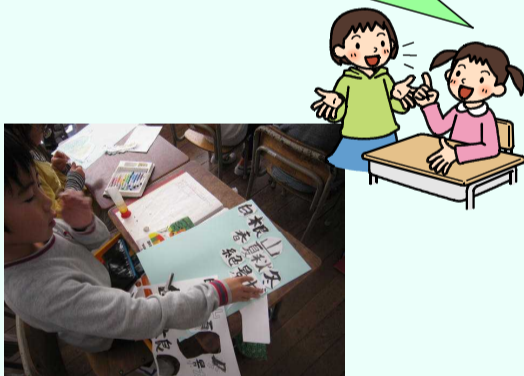
〜前の単元（1学期）〜
りんご園に出かけて、栽培の様子を見てみよう。りんご園で疑問を見つけて調べていこう。わかったことを新聞にまとめよう。

体験活動でお世話になった農家の人にお礼をしよう



- ・もう一度新聞を作ろう。
- ・手紙を書きたいな。
- ・販売所の看板を作りたいな。
- ・りんご料理のパーティーを開いて招待しよう。

◎ 私たちにできることで、農家の人によるこんでもらおう。



課題の設定

見通し①

「インタビュー活動」

身近な大人にインタビューを行えるようにすることで、地域のよさを改めて認識し、地域で働く人と自分の生活とのつながりを感じ、地域への愛着を高められるようにする。

農家の人の役に立つポスターにするには、どんな内容にしたらよいでしょう。

- ・片品のリンゴを買っていく人は、どこの人が多いのでしょうか。
- ・スーパーでは、どこで作られたリンゴを売っているのでしょうか。
- ・私たちの家では、どこで作られたリンゴを食べているのでしょうか。

情報の収集



- スーパーには全国的な大産地のものが売られているけれど、この地域では近くで作られたリンゴが食べられているんだね。
- 近くの人以外にも、紅葉を見に来た人や温泉のお客さんがリンゴを買ってくれるんだね。
- 片品の自然は、リンゴ作りに適しているんだね。

整理・分析

ポスターづくりのめあて

温泉や紅葉が目的のお客さんにも、地域のりんごのおいしさを知ってもらおう。

病気や害虫に負けないように、農家の人が手間をかけて育てたことを伝えたいな。

りんご農家の人に喜んでほしい。りんご園のお客さんが増えるといいな。

温泉や紅葉などのすばらしさをもっとたくさんの人に知らせれば、たくさんの人に来てくれるかな。

まとめ・表現

ポスターづくりの感想

- わたしは「苦労して作ったおいしいりんご」というタイトルにしました。先生やみんながいろいろ教えてくれてわたしはとてもうれしかったです。
- わたしは尾瀬の自然を伝えるポスターを作りました。わたしはミズバショウ、りんごなどの絵を描いて、アップルフリークで売っている品種などを書きました。そして最後に名前ペンでなぞります。今度はみんなに見せてあげたいです。

見通し②

「ポスターづくり」

特産物や名所をアピールするポスターをつくれるようにすることで、自分の地域のよさをより多くの人に知ってもらおうという立場で情報をとらえ直して発信し、観光と農業を産業の中心とする地域の一員としての自覚が芽生えるようにする。

「地域で働く人の立場」で発信できるように次の三つの視点でポスターのテーマを立てさせる

- ア りんご園に来た人に、リンゴのことをもっと知ってもらおう
- イ 観光客に片品のリンゴのよさを知ってもらおう
- ウ 遠くの人に片品のよいところを知ってもらおう



役場の観光課、村観光協会、商工会の人にできあがったポスターを見てもらい、アドバイスをもらう。
・たくさんの人に見てもらいには、色の組み合わせを工夫する。
・他にも村にはいろいろな名所があることが分かった。

成果と課題

成 果

- 身近な大人へのインタビューによる情報収集は、図鑑的な知識の収集と違って自分とかわりのある人からの生の情報であるため、常に自分と地域とのつながりを意識することになった。また、児童の予想以上に広い地域の人から自分の地域の特産物や名所が求められていることを認識でき、地域への愛着を高めることになった。
- 特産物や名所をアピールするポスターづくりは、農家へ感謝の気持ちを伝えたいという児童の自然な気持ちと重なり、生産者や販売者の立場になって情報を選択して発信することとなり、地域社会で働く人の役に立ったと感じることができた。

課 題

- インタビューのお願いの仕方やお礼の言い方などを練習してから家庭でインタビューをさせたが、今後さらに多くの経験を積んで初対面の人へのインタビューや、相手の回答に対する感想や質問などができるように今後も他者とのかわりを取り入れていく。
- 収穫の喜びと感謝の気持ちからポスターづくりという活動を展開すると、ポスターの完成が収穫時期とずれてしまう。生産者や販売者からの評価を児童に伝えるとともに、来年の販売や集客に役立ててもらえるように関係者と連携ができる一層効果的である。